会長の時間　　●片岡会長

－この国の選挙－

　またまた、選挙のお話です。前、齋藤県政で２人の方が自死。県議会は全会一致で知事に不信任を決議。（ちなみに橋下大阪府政では７名の方が自死されています。）知事は失職を選択し、出直し選挙となった兵庫県知事選挙で、斎藤前知事が再当選を果たしました。
私は知事失職の前に、信頼を寄せる方々から、一連のマスメディアの報道とは異なる、「斎藤知事は、私たちが言うコトに耳を傾け、意見を反映していました…」と伺いました。
　マスメディアの報道にあった、「おねだり、語気を強めた言行」があったことも何人かの方々からお伺いしたが、私は一連の報道に違和感を覚えていました。
知事選挙の期間中、仕事で２日間三宮本通り商店街に売り子として立っていました。
齋藤候補が県民に取り囲まれている光景や、清水候補がデヴィ夫人を伴い歩く姿に遭遇しました。
　イメージに流されず劇場型選挙に惑わされず、「県民の為になる政治を、志高く、強烈な実行力で推進するのは誰だろう？」という観点で、これまでよりも情報を集めて私は投票を行いました。
　あわただしく過ぎ去った、衆議院議員選挙、アメリカ大統領選挙、そして兵庫県知事選挙。立候補者が個々自由に都合よく発信できるソーシャルネットの情報と、マスメディアのワイドショーが流す情報に大きく乖離があった今回の兵庫県知事選挙。
　自身が取りに行く SNS 情報と、マスメディアからたれ流される情報を一人一人が精査・判断して投票を行う時代になったことを実感しました。

卓　　話
「本と遊ぶ」
●私設図書館 九濃文庫 店主
吉田純一様

九濃文庫の吉田でございます。「本と遊ぶ」というタイトルで少しお話させていただきます。
さて、この「望星」という雑誌が、この 10 月に廃刊となり、紙媒体ではなくなり、ウェブマガジンに移行しました。残念ながら、我々年寄りには、ついていけません。まぁ、そのような時代になったということですね。
話は飛びますが、私が本を集めだしたのは 16 歳の時（約 70 年前）、高校 1 年生の時でした。それまでは、全く本のない家庭で育ってまいりましたので、同級生のお兄さん、お姉さんの本を借りて読ませて貰う、そういう時代でした。その頃、出版社が各社こぞって、文学全集を出版し、戦後の出版ブームが始まりました。
講談社、集英社、河出書房、新潮社、筑摩書房等が、日本文学全集、世界文学全集を次々と出版しました。その中で私は、新潮社のものを選びました。世界文学全集が 35 冊、日本文学全体は 80 冊ありました。当時は一冊 290 円でした。
私の場合は、面白いものが一番でした。例えば、世界文学全集では、ユゴーの「レ・ミゼラブル」（ジャンバルジャンと刑事ジャベールの追っかけっこの物語）、デュマの「モンテクリスト伯」（無実の罪を被せられた主人公の復讐物語）等です。市の図書館では、松本清張の「かげろう絵図」というのを借りてきて、龍野藩主の脇坂の殿様が活躍するのを、面白く読んで、清張さんにファンレターを出したのを覚えています。（勿論、お返事は戴いておりません。）
その当時、たつの市龍野町大手に兵庫県信用組合龍野支店が出来て、信用金庫支店長の井上さんが文学好きで「西播文学」という同人雑誌を作られました。下川原商店街の井戸さんや、菅野さん、本町の西村ふとん店の店主さんなどが集まっていました。約 30 年続いたと思います。その中から、有望作家志望や詩人がたくさん出て行きました。
ところで、たつの市から、芥川賞候補作家が 2 名出ているのをご存じですか？1 名は誉田町出身の丸山義二さん（プロレタリア文学、農民文学作家）、この方は昭和 15 年前に候補になっています。作家としては、大変なご苦労をされた方です。もう 1 人は、中井出身の竹内和夫さん、この方は 30 才の時、中学校の先生をしていましたが、「孵化」という作品で芥川賞候補の次点となり、その作品は、文芸春秋に掲載されました。西播文学の同人が、鹿島会館を借りて、盛大なお祝いの会を催しました。その竹内さ

んは、先般お亡くなりになりましたが、作家として活躍し、その後、神戸新聞社の毎月の募集原稿の審査委員をしたり、多数の同人誌の育成に力を注がれました。山崎町在住でした。50 歳を超えてから、約 30 年間、龍野高校卒業生を集めて「酩酊船」という同人誌の発行人としても活躍されました。映画監督の前田陽一さんも同人の一人であります。さて、私の文庫は日山の粒座神社の北にありますが、約 60 年間集めた本が、いつの間にか 2 万冊になりました。父親が商売をして残してくれた倉庫を改造して、集納しました。それが私の 60 歳になった時でした。60 歳を記念に、私設図書館として九濃文庫を始めたわけです。

私が退社したのが 78 歳ですから、約 20 年続けてきたわけです。当初は週に 2 日間程開けていました。74 歳まで現役で仕事をしましたので、現在は週 4 日程開けています。殆ど、口コミのお客様ばかりですが、月平均 10 人として、約 2 千人の人が訪ねてくれています。本の好きな方は、全国に何万人といますから、来て下さる方は東京以南、大阪、神戸、四国の徳島、広島にいたっております。これまでにイベントを 3 回行いまして、各回、全国から約 130～150 人の方が来られています。

昨年の 10 月に、相生にゆかりのある作家佐多稲子さんの生誕 125 年没後 29 年展を開催いたしました。おかげ様で盛況で、約 150 人の方が来られたでしょうか。作家を知らなかった方のほうが多かったようです。彼女は 25 歳から作家となり、86 歳まで現役で約 300 冊の本を残されました。全て相生の歴史民俗資料館に寄贈しましたので、私もほっとしている次第です。

昨年のイベント終了後、本の処分をどうするか悩みました。2 万冊の内、半分は古書店（5 店舗）に依頼し、処分出来ました。

しかし、約 8 千冊が残っていまして、どうするかを考えましたが、自分が生きている間は、本について語り合う場所として必要ではないかと思うようになっております。皆さん、開いておれば是非寄ってください。

一冊の本というのは、世界を駆け巡っています。たくさんの友人を作ってくれます。もう少し、その空間をたつのの町、川西の古い町に続けていきたいと思います。

さて、最後に皆さんに一冊の本を紹介させていただきます。夏目漱石の書簡集です。漱石の弟子はたくさんおります。小宮豊隆さん、寺田宝彦さん、内田百閒さん、鈴木三重吉さん、森田草平さん等々。芥川さん、志賀さんも含めれば相当の数になりますが、漱石という人は、分け隔てなく、一人一人の長所短所を踏まえて指導の手紙を書いております。約 600 通になります。皆様の会社で、社員育成の参考になるかと思います。